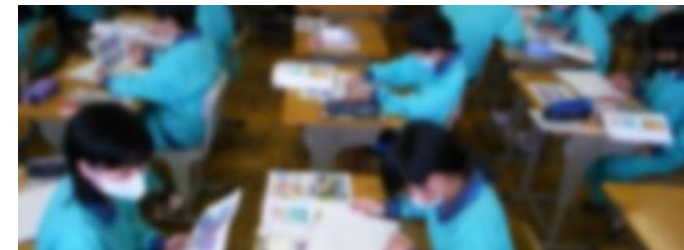
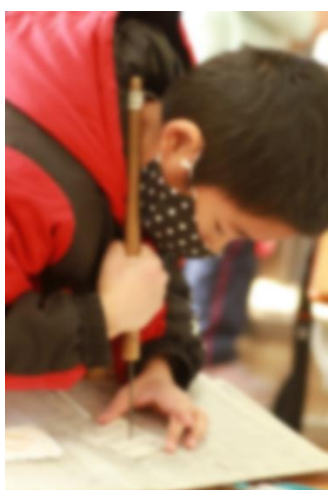


北信教育事務所だより

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

第2号
令和3年5月18日

共に拓く



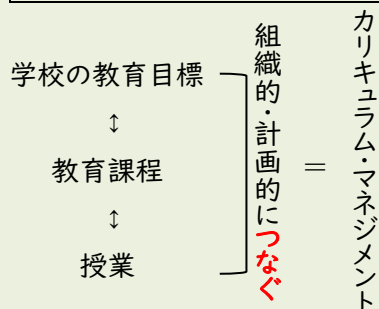
目指す子どもの姿を語り合う

新年度が始まって1か月が過ぎました。子どもたちの生き生きとした学びがスタートしたことかと思えます。この学びの姿は、どこへ向かっていくのでしょうか。

第2号は、「目指す子どもの姿を語り合う」をテーマに特集しました。今号の特集が、「子どもたちのどんな姿を期待するか」ということについて、先生方が語り合うきっかけとなることを願っています。

わたしたちのカリキュラム・マネジメント！

教育課程を意義あるものとするために



新学期がスタートし、各学校では様々な教育活動が本格的に進んでいるかと思います。今年度の取組を意義あるものとするために、カリキュラム・マネジメントの推進は重要です。教育課程、学習指導の改善と人的・物的体制とを組み合わせながら、組織的・計画的に、学校の教育活動の質の向上を図っていきたいところです。

ある学校では、カリキュラム・マネジメントの3つの側面の1つである「教科等横断的な視点で組み立てていくこと」を踏まえ、年度当初に総合的な学習の時間の年間計画作成を、全職員で考え合いました。

昨年度の取組を振り返り、作成したグラウンドデザインを基に、「今年度は、自己有用感を感じられる活動に取り組みましょう」と研究主任の先生が呼び掛けました。すると、「校区にある素材や人材を活用したいなあ」「あの子たちが夢中になる活動を考えたい」とつぶやきながら、先生方が今年度取り組もうとする探究課題について、アイデアを出し合っていました。



通勤途中に、小麦畑が広がっているのが見えたんです。小麦を育てる活動を通して、食生活や食文化を見直す活動をしてみようかと考えています。みんなで取り組む必要感があると、自己有用感が育てられる気がするんです。

昨年、うちのクラスは「青い目の人形」について探究してきました。人形を贈る意味について考え始めた子どもたちは、「自分たちで作って贈ってみたい」と言い出したんですよね。「自分たちで」というところがいいなと思って。伝えることに必要感が生まれる気がします。



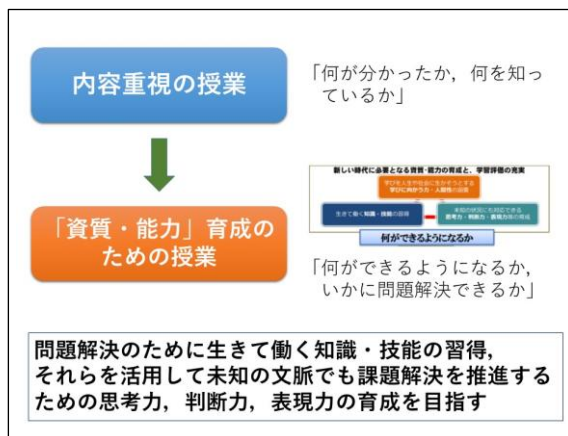
まずは、みんなで一緒に校外を歩こうと思っています。私なりにやってみたいことがあるのですが、子どもたちの関心が何に向いているのか、探ってみたい気持ちもあるからです。「子どもの願い」と「教師のねらい」のどちらも大切にしたいです。

この学校では、具体的な授業づくりについて話し合うことで、目指す子どもの姿という「ゴール」を職員間で共有することができたようです。年度当初に、子どもの姿や授業について、互いに語り合うことは、学校のカリキュラム・マネジメントを推進することにつながりますね。

「教師」が主語の授業から、 「子ども」が主語の授業へ

4月30日(金)
研究主任研修会
オンラインで実施

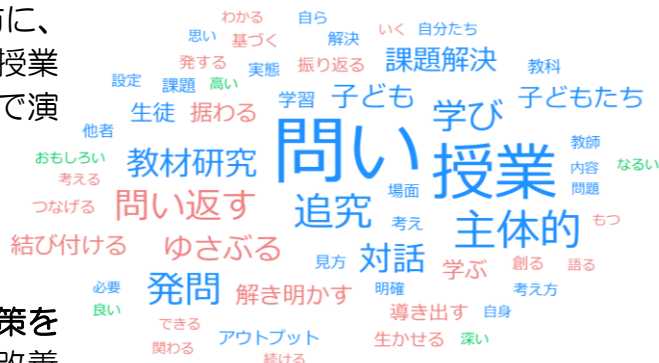
資質・能力ベースの授業って何？



左の図は、研修で用いたスライドの一部です。資質・能力ベースの授業を考えたとき、「何ができるようになるか」「いかに問題解決できるか」という、問題解決に生きて働く知識・技能の習得や、それらを活用して未知の文脈でも課題解決を推進するための思考力、判断力、表現力等の育成に視点をあてる必要があります。授業のゴールも、「何が分かったのか、明らかになったのか」から、「何ができるようになったか」となっていくと思います。では、どんな授業をしていく必要があるのでしょうか？

資質・能力を育成するためにどんな授業をしたらいいの？

右は、研修会の中で、研究主任の先生方に、資質・能力を育成するためにはどのような授業をしていけばよいかについて、オンラインで演習シートに書き込んでいただいたものを、「AI テキストマイニング」をしたみた結果です。ここでは、「問い」という言葉がキーワードとして多く挙がってきています。子ども自らが問題を見いだして解決策を考えることを充実させていくことも授業改善の1つの視点として挙げられます。

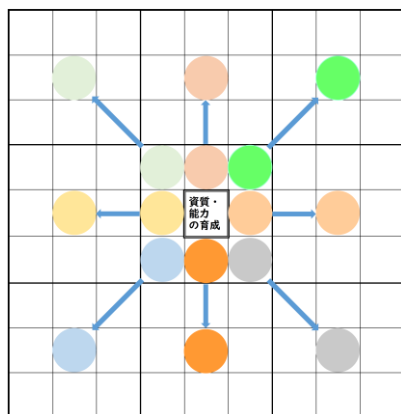


↑「AI テキストマイニング」
<https://textmining.userlocal.jp/>

これらのキーワードも参考にしながら、資質・能力を育成するための授業改善を図ってまいりましょう。また、周辺にある小さい文字のキーワードにも注目したいところです。授業改善のヒントが、ここにもあるように思います。

校内において創造的な研修の場を設けてみませんか？

【目標達成表】マンドラチャート



各学校において、「資質・能力の育成」のためにどのようなことに取り組んでいけばよいか、考え合ってみてはいかがでしょうか。その際に、今回の研修会で紹介したマンドラチャートを使うことも考えられます。

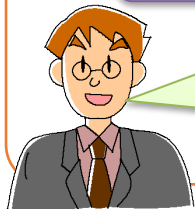
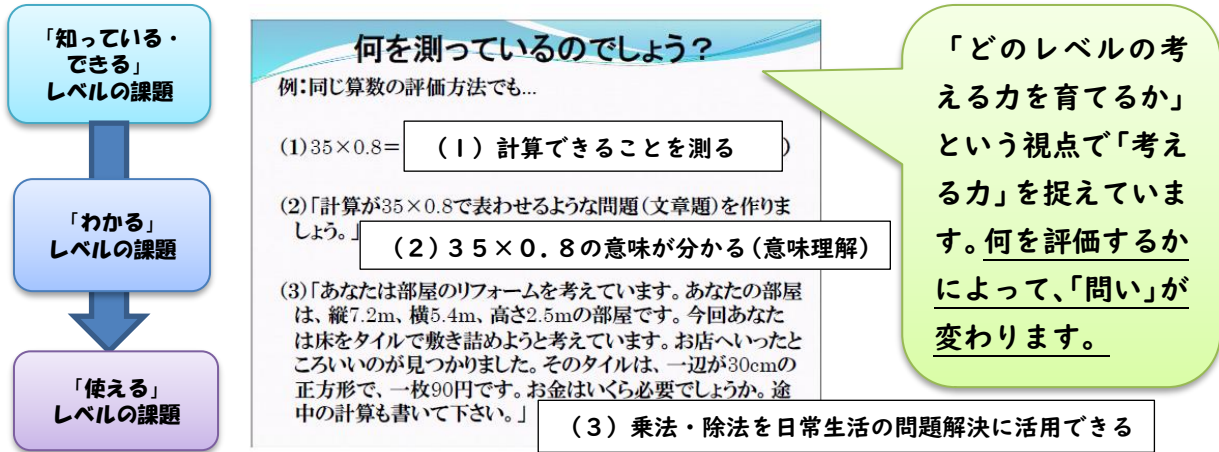
このチャートの中央に、達成したい課題を書き、この課題を解決していくためのポイントや解決策を周りの8つのカラーの丸の中に書きます。その8つの丸を中央に書かれた課題を解決するためのスモール課題と見立て、新たな3×3のマスの中央に書き、それぞれについてさらに具現のためのポイントや解決策を考えてみます。

左の目標達成表(マンドラチャート)は、4月に各校にメールで送付してあります。ぜひ、ご活用ください。

第1回「学びの改革ミニフォーラム」開催(オンライン)

石井英真先生(京都大学大学院准教授)の講演に学ぶ 4/23(金)

学びの改革ミニフォーラムでは、講師から新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善やカリキュラム・マネジメント、GIGAスクール等の具体を学び、コロナ禍を超えていく「学びの改革」を進めていきます。今回は石井英真先生の講演から、学習評価のあり方について考えました。



ペーパーテスト以外の思考を試す課題は、「使える」レベルの学力を育む学習活動として「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両方を評価する機会として位置付けられる必要があります。

次回、第2回学びの改革ミニフォーラムは6月17日(木)オンラインで開催します。奈須正裕先生(上智大学教授)から「資質・能力」をテーマに学びます。大勢の参加をお待ちしています。

4月27日開催 小学校英語専科教員研修

We did it with ZOOM!

What's 英語専科研修?

外国語教育の指導力向上および情報共有を目指した英語専科教員の研修です。4地区合同で行い、様々な経験年数をお持ちの60名の先生方が参加されました。

研修のながれ

- ・アイスブレイク
- ・信州大学教育学部教授 酒井英樹先生の講演「学習評価(話すこと[やり取り])について」
- ・グループ演習「CAN-DO リストの作成」

アイスブレイクでは和気あいあいとした授業をしている上での課題や悩みを共有しました。酒井先生の講演では、参加者のやり取りから具体的な「話すこと(やり取り)」の評価方法を教えて頂きました。

先生方が実際に作った CAN-DO リストの例

- 5年生: ジェスチャーや写真等を活用し、相槌や問い返しなどを用いたやり取りを行うことができる。
- 6年生: 自分や身近な事柄について相手の考えや気持ちなどに考慮しながら話したり、たずねたりすることができる。

研修会の最後、ある先生からチャット欄に...



各地区の専科の先生方でまた集まりましょう! 共に頑張りましょう。

というあたたかなコメントを頂きました。
ありがとうございました。

個人ではなく、チームで指導にあたる。みんなでがんばろうという雰囲気が英語専科教員の良さではないでしょうか。指導力向上に向けて、私たち指導主事も共に歩んでまいりたいと思います。

4月13日開催 初任研スタート研修 【オンライン】

オンラインでの開催となりましたが「教師としてのあり方」「コンプライアンスとサービス」「授業づくり学級づくりの基礎・基本」などの内容について、講義や協議を交えて研修することができました。また、グループセッションの場面では、授業づくりや学級づくりに関わって互いの悩みや課題、今後取り組んでいきたいことについてたっぷり語り合うこともできました。初任の先生方が、今何を感じ、ご自身の初任者研修をどのようにスタートされたのか、当日の振り返りよりご紹介いたします。

「軸」を通してつながっている

教師としてのあり方・考え方を見つめなおすことができた。特に「**学級づくりと授業づくりは両輪であり、軸を通してつながっている**」という内容はこれまで自分が「学級と授業のつながり」に意識を向けることができていなかったと気付くきっかけとなった。様々な場面で子どもの姿を見つめながら「このクラスでよかった」「私はクラスに必要だ」と思えるような学級づくり授業づくりをしていく大切さを学んだ。



「問い」を常にもち

子どもとより関わり、見つめ、子どもの願いを捉え、寄り添うことができるよう、**子どもが今何を考えているのか、何を思っているのかという問いを常にもち**、どのように関わったり、どのような支援をすればよいのか考えたりしていきたい。



「信用」を得るためには

教師という職の責任・責務を改めて確認することができた。子どもたちと向き合う教師が、**子ども・保護者・地域の方々からの信頼を得るためには**、学校の内外を問わず自分の行動を律する必要があると思った。



「チーム」のようになって

それぞれに不安な想いがあり、似た悩みもあり、一緒に頑張ろうという気持ちになった。今回ここで出会えたご縁で、**チームのようになって、うまくいった方法や失敗談もこれから共有していけたらと前向きにとらえられる時間**となった。



気持ちが「楽」になった

お互い初任者同士で語り合いをすることで、学級や授業に対する悩みや不安など、**自分だけが不安な気持ちを抱えている訳ではないことがわ**かり気持ちが楽になった。また、学級活動の進め方、授業の仕方、話し方、子どもとの関わり方など参考になることがたくさんあった。



初任者の皆さんは今後の研修の中で、1年次の自己課題を設定していきます。そして、校外研修、校内研修を通してその課題の達成を目指していきます。この事務所だよりでも年間を通して、そんな初任者の皆さんの姿を紹介するとともに、その初任者を支える周りの先生方についてもお伝えしていきたいと思います。北信教育事務所は一年間に渡って初任の先生方を応援し続けます！

生涯学習課 社会人権教育では、次の研修会を計画しています。
人権感覚は、学び続けることで磨かれていきます。ぜひ、共に学びましょう！

一人ひとりが尊重され 元気が湧いてくる
自分をみつめ、新しい自分を発見し、出会いから学ぶ

北信地区 社会人権教育研修会



日時：令和3年7月6日(火)13:00～16:30（受付開始12:30）

場所：中野市 豊田文化センター ほか

12:30 13:00 13:10 13:40

15:00 15:20

16:30

受付	開会行事	行政説明	講演会 (80分)	移動	分科会 (70分)
----	------	------	-----------	----	-----------

講演会 (13:40～15:00)

演題 「様々な人権課題について満蒙開拓から考える」

講師 満蒙開拓平和記念館 館長 寺沢 秀文さん



分科会 (15:20～16:30)

第1分科会 【学校における人権同和教育の取組】 三本柳小学校 浅井 誠さん

第2分科会 【企業におけるダイバーシティの取組】 春蘭の宿 さかえや

代表取締役 湯本 晴彦さん、スタッフの皆さん

第3分科会 【障がい者の人権の取組】

高水福祉会 統括部長 野口 直樹さん

第4分科会 【外国人の人権の取組】

中信多文化共生ネットワーク

丸の内ビジネス専門学校 講師 佐藤 佳子さん

第5分科会 【ワークショップ「語り合おう 気づこう 人権」】

東信教育事務所生涯学習課 指導主事 園部 勇一郎さん

○参加対象者

- (1) 県・市町村社会人権教育担当者(行政職員、公民館関係者、社会人権教育推進者など)
- (2) 社会教育団体関係者(女性団体・青年団、社会教育委員、社会教育指導員、PTAなど)
- (3) 学校人権教育関係者(幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校 など)
- (4) 人権擁護委員、民生児童委員、福祉事業関係者 など
- (5) 企業人権教育関係者(公正採用選考推進員、企業内人権教育担当者 など)
- (6) 人権教育実践力スキルアップ講座受講者
- (7) その他(人権問題に興味・関心のある方ならどなたでも参加できます)



<申し込み> 締め切りは6月23日(水)です。

本研修会は3密(密閉・密接・密集)をさけるように配慮して開催いたします。そのため、定員を会場の50%以下の人数(200名)とさせていただきます。申し込み多数の場合、調整させていただきますことがあります。お問い合わせは担当まで。

長野県教育委員会事務局 北信教育事務所生涯学習課(担当:松澤 清市)

Tel:026-234-9552 Fax:026-234-9557

メール:hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp